

第1章 授業科目のしくみ

1. 教育課程の科目区分

本学の教育課程は、教養科目、専門科目、自己設計科目、自由科目に科目区分されています。

教養科目は、全学部・学科共通の科目で、各学部・学科の専門科目とは違った内容のものです。が、学士にふさわしい総合的な力を育成するための科目です。

専門科目は、学科の教育上の目的を達成するために必要な科目です。

自己設計科目は、単位互換制度に関する科目、教員免許状の取得に必要な教職に関する科目、学習支援に関する科目です。

自由科目は、資格を取得するために必要な科目です。

2. 授業科目の分類

本学の授業科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目に分類されています。

必修科目	【必ず修得しなければならない科目】 この科目の単位が未修得の場合は、単に卒業要件単位数を修得していても、卒業することができません。
選択必修科目	【特定されている科目の中から一定の単位数を必修とする科目】 この科目も、必修科目と同様に未修得の場合は、単に卒業要件単位数を修得していても、卒業することができません。
選択科目	【特定されている科目の中から自由に選んで履修できる科目】
自由科目	【所属学科の教育課程以外として取り扱われる科目】 単位修得があっても20単位までしか卒業要件単位数に充当されません。

3. 開講形式

各授業科目は、次の2つのうち、いずれかの開講形式をとっています。

学期完結	前期もしくは後期の半年間で授業が完結されます。 成績評価及び単位認定は、各学期に行われます。
通年	前期・後期を継続して授業が行われます。 基本的に、前期終了時での成績評価は行われず、前期・後期の成績を総合評価して単位認定されます。ただし、暫定点（中間点）が公表される場合もあります。 教育実習指導等、2年以上にわたって行われる科目もあります。

4. 開講及び授業形態

通常、一つの講義は、週1回90分1時限で行われます。

また、授業を効果的に行うため、科目によっては次のように開講されるものがあります。

複数開講科目	1週間に同じ講義内容を複数回開講する科目をいいます。 毎年、履修者数が多い科目を、多くの学生が履修できるように、週に数回開講しています。
連続講義科目	授業の効果をあげるため、同一曜日に連続した時限（〔例〕月3・4時限連続）で行う場合と、異なる曜日（〔例〕月3・金2）で行う場合があります。 該当する時限をすべて履修しなければなりません。
集中講義科目	授業の効果をあげるため、一定期間に集中して行う科目をいいます。 教育実習指導など、数年をかけて行われる科目もあります。
オムニバス科目	一つの講義を担当者が複数名で引き続いて行う科目をいいます。
共同授業科目	一つの講義を複数名の担当者が一緒に行う科目をいいます。

5. 授業の種別

授業には、講義、演習、実験、実習及び実技の種別があります。

授業科目は種別によって、授業の方法及び施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮し、履修人員を制限することがあります。